

回廊と谷

—— 平面的・断面的なシーンが生む空間の広がり ——

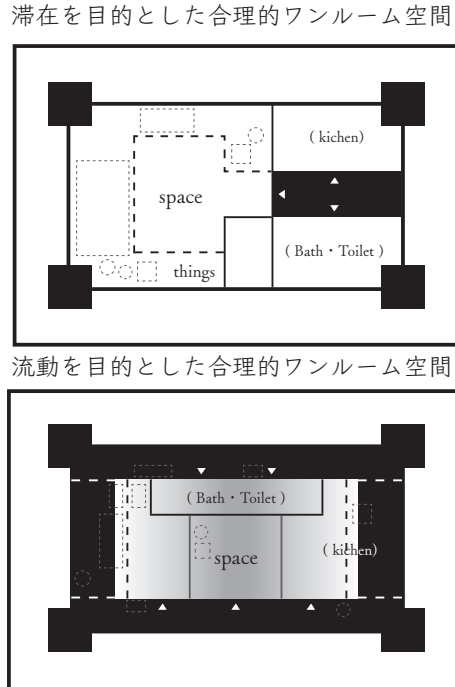
i 設計趣旨

28㎡の空間の中には一つ、大きなお椀の形をした谷が存在している。この谷はマンションの一室に流動的な回廊をもたらすために生まれた。一般的なワンルームの滞留を目的とした中廊下型の構成に比べ、多くのシーンを与えてくれている。そのシーンの多さがゆえに既存躯体以上の空間の広がりをもたらしてくれると考えた。これまでのワンルームとはまた違う、物質的な空間の広さより大きく、豊かな暮らしがこの建築には現象している。

ii 課題と問題意識

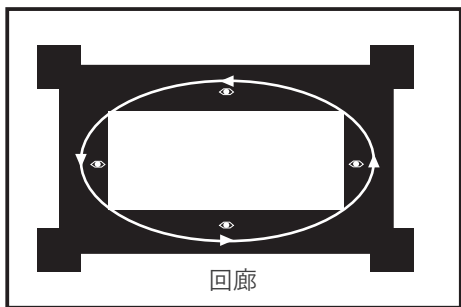
ワンルームにおける合理性とは

一般的に普及しているワンルームにおける空間は滞留を目的としたときの合理的な室配置と動線計画である。ここで提案するワンルームでは、いわゆる滞留する空間の周りに回廊を取り巻き、「流動」を目的としたときの合理的な空間を試み、上部下部共に空間を造るお椀型の造形を見出した。

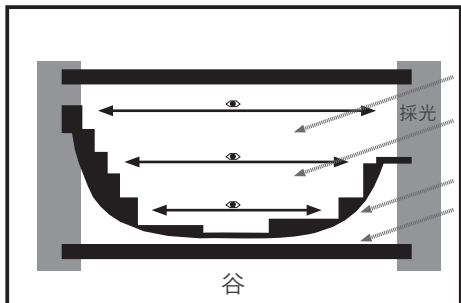


iii 形態操作

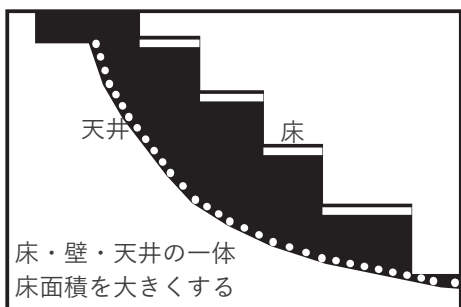
この建築での形態操作は大きく分けて、【回廊】を作ったことと、浮かぶ【お椀型の谷】である。この操作は滞留する空間と流動する空間の最大限を求めた合理的な造形である。



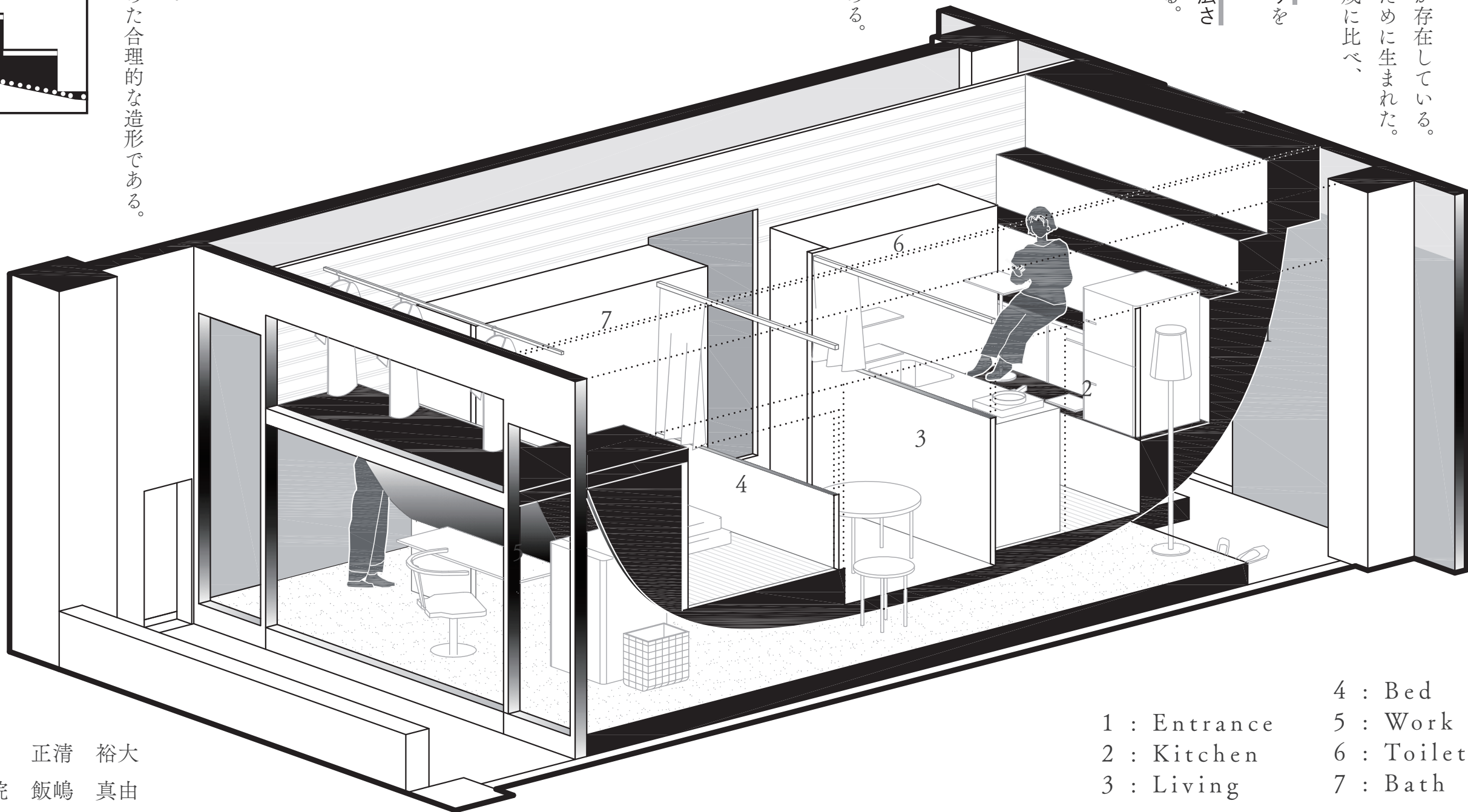
多数のシーンを生む造形



谷

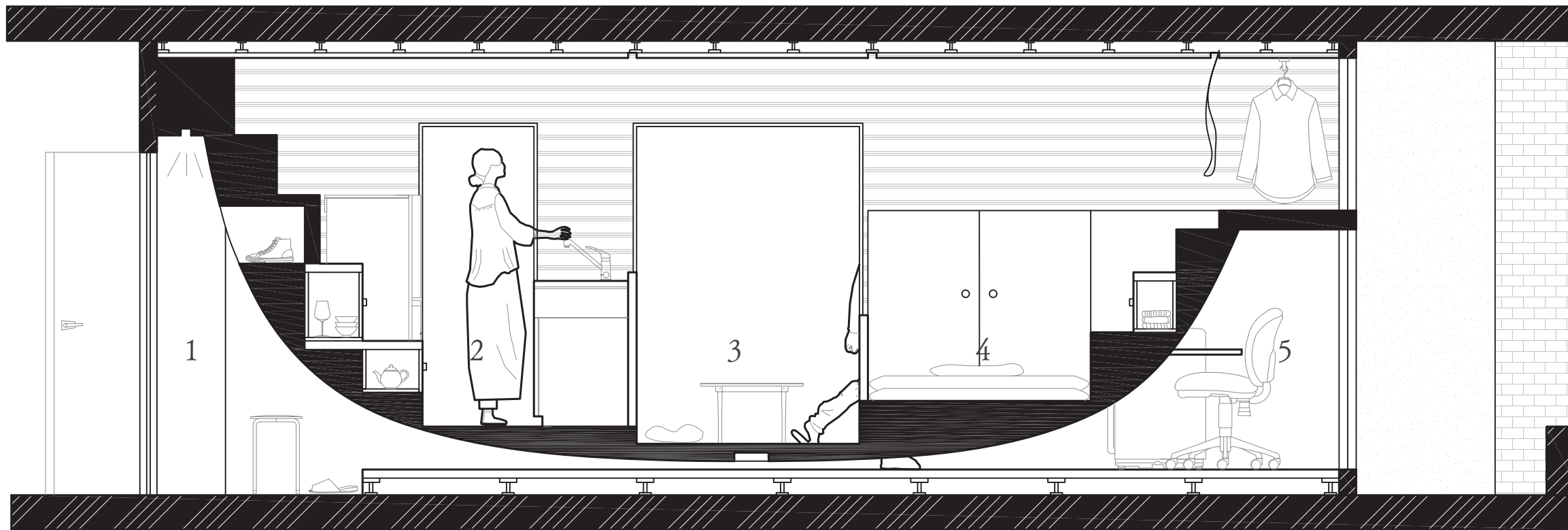


床・壁・天井の一体床面積を大きくする



- 1 : Entrance
- 2 : Kitchen
- 3 : Living

- 4 : Bed
- 5 : Work
- 6 : Toilet
- 7 : Bath

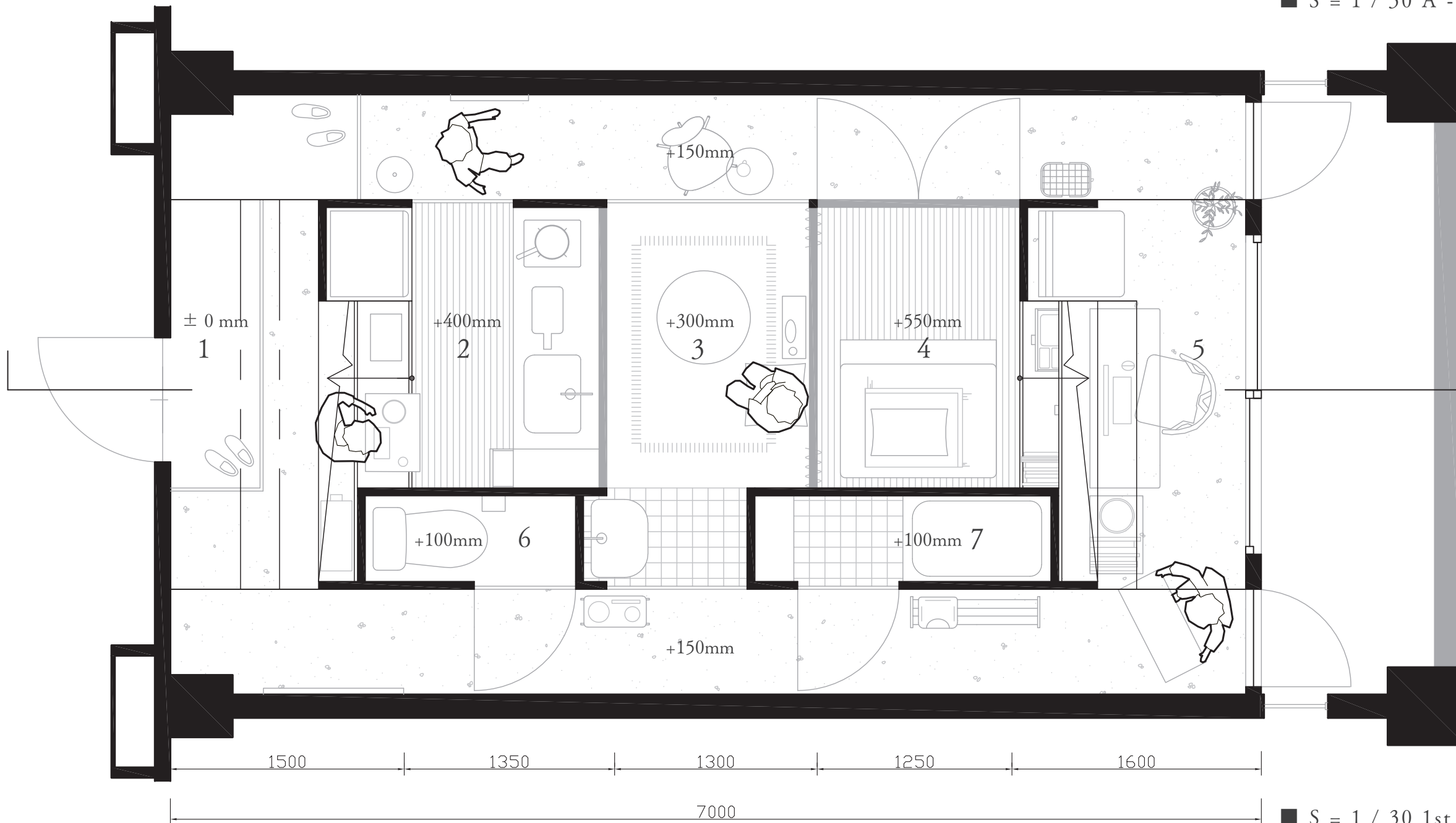


■ 谷の深さと人の視界

谷が最も深い空間は、中央のリビングである。ここに座ると、両隣のキッチンや寝室の低い壁に囲われた安心感のある空間となる。そこから次にキッチンに立つと、今度は奥行き7m程の空間が一望できる開放感のある空間と変化する。生活者の行動に伴って、視界に映る空間の広さも変化する。ワンルームでありながら、”ひとへや”ではないような感覚をつくり出している。



■ S = 1 / 30 A - A Section



■ モノの置き場と人の行動範囲

人は壁際に沿ってモノを置く。すると一般的なワンルームでは、必然的に全方位モノに囲まれた空間となるが、ここでは、もうひとつ内側に壁を設けることによって、外側にモノが置かれなくなり、モノの置き場と人の行動範囲が逆転する。行動距離(廊下)を伸ばすことは、非合理的に思えるが、生活者の目に映る空間はめまぐるしく変化することによって、認識する空間は広く感じられるだろう。考え事をしながら、歩き回るような生活像も想像される。



- 1 : Entrance
- 2 : Kitchen
- 3 : Living
- 4 : Bed
- 5 : Work
- 6 : Toilet
- 7 : Bath

■ S = 1 / 30 1st Plan

